

JAICOH NEWS LETTER

NO:66 2012 年 10 月 発行



歯科保健医療国際協力協議会

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

〒113-8549 東京都湯島 1-5-45 東京医科歯科大学 歯学部口腔保健学科
URL: <http://jaicoh.org/> Email: info@jaicoh.org Tel: 03-5803-4971
郵便振込: 00140-9-599601 歯科保健医療国際協力協議会
発行: 白田千代子 編集: 中久木康一

2 期目の JAICOH に思いを込めて

JAICOH 会長 白田千代子

7 月の JAICOH の第 23 回総会にて、2 期目の会の運営を継続して任されました。ここ 2 年間、総会を除き、年 3 回これからの社会を担う若い方々を対象に研修会を開催してきました。このような活動をするとき、心にゆとりがない限り、活動に積極的に向き合えないことを活動経験者は体験していると思います。JAICOH の会員の皆様の多くが、ここ 1 年間、震災の地で何らかの活動をしてきたことの報告をもうけました。このことも、気持ちにゆとりがあって、初めてなされることだと思います。JAICOH の会員が行っているような活動に興味を持っている若い方々に、機会を提供することで、学生時代から気楽に JAICO 会員の活動に興味を持っていただき、活動していただきたいと、この研修会を継続することにしました。

最近、歯科大学のシラバスに、「国際歯科保健・医療について」が取り入れられています。また、国内の大学で、多国籍の多くの留学生が勉学に勤しんでいます。これら学生の勉学に協力することも、必要なことだと考えています。平成 23 年からはじまった、国際交流活動をしている歯科関係者以外のグループとの交流は、歯科保健活動に情報やアイデアなどを学ぶこともでき、これからの歯科保健活動の質や幅の広がりにも期待できます。特にアジアの国々では、小児の保健・医療についての対策や施策に対する要望や関心が高く、これらのことに適切に対応するためにも、国際歯科活動以外を実施している組織との交流や共同活動をも、より積極的に推進したいと考えています。

今期も地道に、組織を運営してまいります。会員皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

写真：東京医科歯科大学では、国際関係の授業を展開し、学生が海外で口腔保健指導の体験学習を実践する機会を設けています。



JAICOH 秋の研修会（ご案内）

下記の通り、JAICOH 秋の研修会を行います。みなさま、ぜひお集まりください。

テーマ： 「海外でのボランティア活動から、災害後の地域活動へ」
講師： 細川亮一先生（東北大学大学院 歯学研究科 予防歯科学分野 講師）
場所： 東京医科歯科大学 1号館8階 第4教室
日時： 10月27日（土）13:00～
会費： 一般 2000 円、学生 1000 円
コーディネーター： 中久木康一

講師は、平成 11 年に東北大学歯学部卒後に九州大学第一口腔外科に入局され、平成 15～21 年には南カルフォルニア大学に赴任されておられ、平成 21 年～東北大学の予防歯科に移られた細川先生です。

アメリカ時代に行っていた、アメリカの貧しい地域の特に英語を話せない人々への無料の歯科医療を届けるボランティアについてや、2010 年のハイチ大地震後の、アメリカの医師団の一人としての歯科医療や、孤児院に対する口腔衛生活動について、ご紹介いただきます。

また、東北大学に赴任後には東日本大震災に遭遇し、その救護活動にも従事されていますが、その際にアメリカやハイチでの経験がどのように役だったかについても、お話しいただく予定です。どなたさまも、お気軽にご参加下さい。

今後、研修会・交流会を開催していただける方は、事務局 info@jaicoh.org までご連絡ください。

各団体の会を JAICOH にオープンにいただき、共催・後援という形にしても、個人が企画を持ち込んでの JAICOH 主催という形にしても、よいと思います。いずれにせよ、研修会が増えれば多くの人にとって参加できるチャンスが増えますので、JAICOH としては積極的に開催していきたいと考えています。

第 23 回 JAICOH 学術集会を終えて



第 23 回 JAICOH 学術集会 会長
原田歯科 原田祥二

7月2日日曜日、北海道には暑い初夏の中、北海道大学学術交流会館を会場として無事に学術集会を終えることができました。これも皆様のご協力、ご尽力のおかげと感謝しております。

昨年の名古屋で行われた第 22 回学術集会でご指名を受け今回の学術集会の会長をお引き受けしたものの

の、いつもの参加する側の立場から今回は主催する側になり、責任の重さをひしひしと感じてきました。JAICOH 事務方から叱咤激励を受けて重い腰をようやくあげ、これまで学術集会を担ってきた先生方にお知恵を拝借し、有能な準備委員長に恵まれ、若手の先生には活躍してもらい、地元の先生、学生さんにお手伝いいただき、なんとか学術集会の体をなすことができました。

参加者は地元北海道から遠くは沖縄まで、70名ほどでした。うち、北大の学生さんやお手伝いの先生が15名、小樽、札幌、函館の開業の先生方も10名ほどいらっしゃいました。お昼の懇親会には60名の方々に越しいただき用意した席もほぼ満席でした。

演題も15題申込みいただきました。また、推薦講演でも第一線でご活躍の先生に密度の濃いお話をさせていただきました。特別講演では、はるばるバングラデシュから来日いただきました。ただ、演者は当初の1名から急きょ2名になってしまったことは会長として責任を感じており、海外からの演者を迎える難しさを改めて感じました。

他にも多くの反省はあったものの、これまでのJAICOHの学術集会に汚点を残さぬよう努力したつもりです。振り返ってみると会長は私でしたが、実際はこれまで通り、JAICOHの会員のみなさんの学術集会であったように思います。個人的にも今後のJAICOHの活動が実りあるものになる様に微力ながらも活動していく気持ちを、改めて意識した学術集会になりました。

最後になりましたが、目に見えぬところで支えていただいた諸先生、関係者各位に感謝し、北海道からのご挨拶といたします。

第23回 JAICOH 学術集会（ご報告）

第23回 JAICOH 学術集会 準備委員長
マリーナ歯科クリニック 村田千年

「準備委員長？はい、やりますよ」そう口走ってしまった昨年の7月。準備委員長が何をするのかも実はよく判らないままイキオイで受けてしまった。冷静に考えてみれば4月に開業を予定しており、開業3ヶ月後の北海道での学会を沖縄で準備などできるのだろうか？那覇 - 札幌の距離2200km。東京 - ソウルの距離が1200kmであることを考えると、これはもう海外での学会と同じである。そんな不安な自分を支えたモチベーションは「カニ」だった。北海道で毛ガニを食べたい、それだけを楽しみに「カニ、カニ」とつぶやき、カニ人間化しながら学会準備に入ったのが3月末、開業1週間前であった。

やりたいことはあった。それは昨年、バングラデシュのサッポロ歯科大学でのハンナン学長との出会いが始まりだった。北大歯学部への留学経験者らで設立したサッポロ歯科大学では臨床・教育だけではなく貧困層への口腔保健プロジェクトを実施しているという。意気投合したハンナン学長へJAICOH大会に来ないかと誘ったところ、ハンナン学長としては一般演題でもいいから応募したい、ぜひ行きたいとノリノリだった。ましてや会場は札幌である。ハンナン学長に



としては青春の思い出の地だ。その時点では JAICOH の招待講演の企画もなかったが、ハンナン学長の心意気を感じた私と、一緒にバングラへ渡航した JR 札幌病院の小松崎先生は渡航費を知人らでカンパしようかと相談していた。

4 月になり会場予約、日程の告知、演題募集、運営ボランティア募集、懇親会手配など学会準備が本格化したが、原田先生・北大の滝波先生らが精力的に動き回って頂き、事務局のフォローもあったおかげでなんとか準備は進んだ。演題応募も順調に集まりインターネット環境さえあれば在沖縄でも関係なく仕事ができる。

そして迎えた学会当日。実現したハンナン学長の特別講演を特別な想いで拝聴した。また推薦演題には元 JICA 半田先生、北海道医療大の千葉先生、滝波先生らの講演があり、国際協力を様々な切り口で捉える圧巻の講演であった。学生らの活発な発表もあり、それは次世代の JAICOH を予期させる学会でもあった。

カニはどうだったか。前夜祭は滝波先生が北大近くのジンギスカン屋を手配してくださった。「そうか、カニだけではなくジンギスカンという手もあったか」と私はすばやくカニ人間からひつじ人間化し、「ひつじが 1 匹、ひつじが 2 匹・・・」とつぶやきながら会場を目指した。こうした臨機応変の対応が準備委員長に求められる資質だと思う。



馴れない準備委員長の任でしたが、なにかとフォローしてくださった中久木先生、門井先生、白田会長、滝波先生、そして飲み会の場所確保などに奔走し学会を盛り上げてくれた北大学生の皆さんその他多くの関係者各位にこの稿をお借りして感謝を申し上げます。

馴れない準備委員長の任でしたが、なにかとフォローしてくださった中久木先生、門井先生、白田会長、滝波先生、そして飲み会の場所確保などに奔走し学会を盛り上げてくれた北大学生の皆さんその他多くの関係者各位にこの稿をお借りして感謝を申し上げます。

JAICOH 春の研修会（ご報告）

神奈川県立歯科大学歯学部 4 年生 鈴木 志帆美

平成 24 年 5 月 26 日（土）18：20～19：20 に神奈川県立歯科大学において、JAICOH 春の研修会を開催いたしました。当日は、口腔衛生学会が行われており、同時開催という形となりました。

講師は、日本大学松戸歯学部国際保健部 OB であり、現在は日本大学松戸歯学部口腔外科に在籍されている谷野弦先生に、「学生時代の国際保健活動を卒後も継続している先輩からのメッセージ」をテーマに御講演いただきました。

学生時代から取り組める国際保健とはどのようなことか、また学生時代に行っていた国際保健活動、さらに現在行っている活動について語っていただきました。参加者は本会員の先生方、学生 18 名で、講演会終了後行った懇親会には 16 名の方々に御参加いただき、親睦を深めました。

「学生時代の国際保健活動を卒後も継続している先輩からのメッセージ」

谷野弦先生（日本大学松戸歯学部日本大学松戸歯学部国際保健部OB）

世界には人間開発指数、人間貧困指数、ジニ指数からもわかるよう想像を絶する貧困と不平等が存在します。このことから、我々医療従事者は国際社会に対し医療を持って貧困や不平等を打開する責任があると考えます。私が国際ボランティアに興味を持ったのは国境なき医師団の活動や海外



での仕事への憧れがあり、知人に青年海外協力隊でいろいろと話を聞いていたからです。学生時代には国際歯科保健に興味を持ち、スタディーツアーでカンボジアやタイ、東ティモールなどに赴きました。現地では、歯科部・病院見学や現地住民に対し歯科衛生指導などを行いました。その他、国際保健部として勉強会の企画・参加や JAICOH 学術大会への参加、NGO や NPO の仕事の手伝い、さまざまな施設へのボランティア活動を行ってきました。国際歯科保健活動においては

プライマリーヘルスケアの考えの元、口腔保健の啓蒙活動、予防処置などが最も重要であると考えられます。その中には公衆衛生の普及や母子保健、感染症の予防、食育なども含まれます。治療処置も重要ではありニーズも感じますが、イベント型になりやすく我々が現地にいるときにしかできないといった欠点があります。我々が現地にいなくても活動が維持できるように現地住民の教育や現地指導者の育成も重要であると感じました。一般的に歯科医療は緊急性が低いものが多く、人材の確保、現地の資格、持続性、資金等の問題があげられます。また、歯科医療が未整備の国では治安の問題点もあり、東ティモールにおける活動ではそのことを痛感いたしました。最近では歯科と全身疾患の関係について証明されてきており歯科医療のプライオリティーの向上にもつとめていきたいと思えます。卒業後は現在の所属先である日本大学松戸歯学部の口腔外科に入局し、歯科臨床とともに途上国での活動を継続してきました。近年では JICA 草の根技術協力・パートナー型「カンボジア王国モンドルキリ州住民に対する口腔保健活動の普及・定着」というプロジェクトに調整員及び口腔保健専門家としてカンボジアに赴任し、さまざまな活動を行ってきました。現地ではプロジェクトサイトであるカンボジアの東北部にあるモンドルキリ州にて、住民への啓蒙活動や指導者の育成などを行ってきました。また、現地調整員として、プロジェクトを開始するにあたり、事務所の設立、カウンターパートとの関係の構築、プロジェクトサイトの調査、分析、現地調整員の雇用、事務管理など日本で勤務医として働く上ではなかなか体験できない貴重な経験をしました。カンボジアの村落地域では重度の歯周病や齲蝕が多発しており、それらは歯科医療の未整備から未治療のまま放置されています。それらは近年なにかと話題に上るフリーラジカルを発生させる原因の一つとなり、フリーラジカルなどによって発生した酸化ストレスは加齢現象を加速させる可能性があるのではないかと考えられます。私は現地にてこれらの現象の解明のため、歯科疾



患と酸化ストレスの関係に関する研究も行ってきており、近日学術雑誌にて公表する予定です。

歯科医師になった今でも活動を継続できているのは、海外に信頼できる友人が多数できたこと、考えを共にする仲間、尊敬できる恩師に出会えたことがあげられます。これらのことに感謝しつつ、今後は現在の活動、研究継続、学生サポートなどをしていくことを考えています。最後に、学生の皆さんには是非、若いうちから海外に目を向けること、よい仲間、指導者を見つけることが、国際保健に携わるためには重要だとおもいます。まずは現地に赴き、雰囲気を感じ、現地の人と同じものを食べ語り、どんなことでも挑戦してみることでその土地を好きになり、また来たい、またあの人に会いたいと思う気持ちが私のように現在でも活動を継続できるモチベーションにつながるのではないかと思います。

(記録：鈴木志帆美)

JAICOH 第24回学術集会のご案内(第1報)

下記の通り、第24回JAICOH学術集会を行います。また追ってお知らせいたしますが、ご都合の確保のほど、よろしくお願いいたします。

テーマ： 「日本における国際歯科保健活動の過去と現在」

会長： 白田千代子(東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科教授)

場所： 東京医科歯科大学1号館9階特別講堂ほか

期日： 2013年7月7日(日)

※ 2013年7月6日(土)午後にも若手対象の併催プログラムを予定しています

メーリングリスト(JAICOH-ML)に登録・投稿してください!!

メーリングリスト(ML)の運用をしています。入会している方にはぜひ、全員、MLにご登録いただきたいと思います。

MLにはぜひ、各団体の活動やスタディーツアーへの募集のお知らせなども、ぜひ投稿ください。

なおこのMLは、JAICOH会員に限らず、歯科保健分野における国際保健、地域保健に関心のある方は、誰でも登録できます。

登録希望者は、1. 氏名、2. 所属、3. メールアドレスを、jaicoh-admin@umin.ac.jp までメール送信してください。数日以内に手続きします。問合せは、JAICOH事務局ML担当 門井 jaicoh-admin@umin.ac.jp までご連絡ください。

JAICOH 参加団体紹介

～特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会～

口唇口蓋裂に代表される先天的な口の病気は、外表に見られる先天異常の中で最も多い疾患で、日本ではここ数十年の間に本疾患に対する治療は飛躍的に進歩し、適切な治療を受ければ外面的に残る障害は極めて軽微になってきた。しかし、患者家族の受ける精神的・経済的負担には計り知れないものがあり、この疾患に対する未知からくる社会的偏見、またそれから生ずる精神的負担・社会的不利益に関しては、ほとんど改善されていないのが現状である。また、発展途上国では、国情などもあり、適切な治療が受けられずに放置されている本疾患患者が多く存在している。そこで、「学会」や「患者の会」の活動とは別に、広い分野からの協力を得て、相談や援助を行うことを目的として平成4年1月に愛知学院大学歯学部を拠点として団体設立に至った。

国内においては、医療者と患者の掛け橋として、情報提供を行ったり、ホットラインを設置して患者からの相談を受けたり、本疾患の発生予防に関する研究などを行っている。言語治療のための遠隔治療システムを整備し、離党や僻地の患者へのサービス提供も行っている。海外においては、患者の社会復帰、患者家族の自立支援、口腔外科ならび産婦人科分野の医療技術向上を目的として、無料診療、無料手術、マイクロクレジット事業、医療機器の贈与、医療技術移転などを行っている。

平成14年に6月には特定非営利活動法人として認可を得て、平成15年4月には国連経済社会理事会とのNGO協議資格（ロスター）を取得し、国連認定法人となり、平成22年4月には認定特定非営利活動法人を取得し、海外における患者の手術数もこれまでに4000名を数え、支援を行った国も20か国以上にのぼる。会員数も法人、個人をあわせ2000名以上になり、年4回、日本語版、年1回、英語版の会報を発行して、会員のとの交流も深め、より強固なサポート体制を確立して活動を続けている。

現在、中部地区の主要病院へ海外からの要人が検診に来られるよう橋渡しを行ったり、中部国際空港からの主要都市へのフライトの増便やラオス人民民主共和国、ベトナム社会主義共和国などの名誉領事館が地元名古屋に開設されるなど、医療の分野のみならず、地域活性化のための活動にも裾野を広げている。

ベトナム国・ベンチェ省医療援助隊ボランティア募集 あなたも参加しませんか！

- 派遣日程：12月21日（金）～帰国12月30日（日）
 - 場 所：ベトナム社会主義共和国ベンチェ省 グエンディンチュー病院
 - 派遣者数：40名程度
 - 必要費用：25万円
 - 事業内容：口唇口蓋裂の無償手術を中心とした医療協力
 - 募集対象：高校生・大学生・医師・看護師・歯科医師・歯科衛生士・研修医
- この病院でのミッションは日本口唇口蓋裂協会が海外医療援助をスタートさせてから続いている事業です。1993年から開始して今回はベトナムでは第65次医療援助隊の募集となります。

【お問い合わせ先】日本口唇口蓋裂協会事務局 担当：吉田

E-mail：info3@jcpf.or.jp Tel：052-757-4312 Fax：052-757-4465

事務局より

新事務局体制の発表は、もうしばらくお待ちください

白田会長が2期目となり、現在、役員それぞれと話し合いながら、新役員を選定中です。今後のJAICOHに関わる重要な案件ですので、時間がかかっております。きっと次回のニュースレターではお伝えできるかと思っておりますので、よろしく申し上げます。

運営方針へのご意見があればお寄せください

前回の総会において今年度の事業計画をご説明いたしました。その中で、ニュースレターは、実情にあわせて年に4回から年に3回に変更することが承認されました。研修や学術集会のスケジュールから、春の研修会と夏の学術集会の日程が近いためにその報告はまとめた号となってしまうためです。ニュースレターは、発行とほぼ同時にHPにも掲載します。JAICOHの活動において、広報はとても重要な位置づけを占めていると思っておりますので、HPの見直しやMLやFacebookの活用についても、事務局体制が整いましたら検討していきたいと思っております。

また、シーズプロジェクトは、時代の変遷とともにこの数年応募者もなく、形態を変えての学生・若手支援企画とするべきと考えており、今年は学術集会にあわせて学生・若手向けの企画を考えています。

2012年度会費納入をお願いします！

ニュースレター・NGOダイレクトリーによる国際歯科保健医療協力に関わる情報提供、シーズプロジェクトなど国際協力活動に関心のある若い人たちへ助成など本会の事業は皆様から納入いただく会費によって運営されています。つきましては、2012年度の会費納入にご協力賜りますようお願い申し上げます。

年会費は、普通会员が5000円/年、維持会員が10000円/年です。JAICOHの年度は、7月から6月です。

会費納入先（郵便振替）

口座 00140-9-599601

名称 歯科保健医療国際協力協議会

しばらく待ってみましたが、次の世代を育てたい、歯科衛生士に活躍の場を与えたい、というような気持ちの中で、白田会長の役員の人選と調整にも時間が必要なようです。事務局としても、引き継ぎ資料などを見直して住所録の整理などをしていましたら、いろいろ遅くなってしまいました。お届けが遅くなりましたこと、お詫びいたします。

当面、昨年度に引き続き暫定的に事務局を運営して行きますので、よろしく申し上げます（中久木）。